



## NPO法人化後の「第1回通常総会」を開催



通常総会の一場面

5月10日、狭山市中央公民館ホールにおいて、NPO法人狭山環境市民ネットワーク発足（昨年8月14日法人登記完了）後、初めての通常総会が開かれました。当日はあいにくの雨でしたが、正会員72名中58名（委任状提出16名）の参加がありました。受付から開会までの間、ピアノ演奏が行われ、和やかな雰囲気の中で総会が始められました。石田代表理事の開会挨拶に引き続き、ご来賓の仲川市長より祝辞をいただき、その後議事に入りました。

NPO法人化後の19年度の事業報告から始まり、収支報告、監査報告並びに、20年度事業計画案、収支予算案及び役員体制案の提案説明が行われ、全ての議案が全会一致で可決承認されました。

事業報告については、会員から「今ひとつ活動の様子が見えてこない。もっと活動をアピールするものに出来ないか」「各分科会の領域を超えた活動が見え難い」などの発言があり、今後は全体の活動をより解りやすく報告するよう検討することになりました。

第2部として、  
① 環境カルタ  
実行委員会より  
「さやま子ども環  
境カルタ」の展示  
と今後の取り組み



緑のトラスト保全9号地の紹介

についての報告 ②狭山市建設部みどり公園課より「緑のトラスト保全第9号地の概要とその管理」についての紹介 ③NPO法人・狭山市の高齢社会を考える会の山川理事長より「活動概要とさやま環境市民ネットワークとの連携」についての講演が行われました。NPOさやまの活動とネットワークの拡がりを感じさせる第2部となりました。最後にもう一度、ピアノ演奏で締めくくり、和やかに総会が閉会されました。

(伊藤勝彦)



### 環境くん

砂川しげみさ

## 緑の分科会

### 環境ツアー雑感

4月13日(日)37人の参加者を得て環境ツアーを学行しました。まず、都留市役所(山梨)が消費している電力の約2割をまかなう「マイクロ水力発電」、御殿場市(静岡)の巨木「宝永の杉」、および清水町(静岡)の東洋一を誇る「柿田川湧水群」を、ぐるり一周してきました。



都留市のマイクロ水力発電の前で

小生自身の感想は、エネルギー資源の高騰に対抗している小さな水力発電の確かさ、他の多くの木々が朽ち果ててゆくなか、その木が何百年と生き

残る不思議さ、湧水で作った豆腐がうまかったことです。(参加された皆様方も同じ感想では?)なお今後の参考として、計画から実施まで、相手先との調整および確認のため、2回ほど同じルートを回り、その結果、休憩を多く設定しました。

ちなみに、当日は行きませんでした。干本浜(沼津)で横になり、瞑想して波の音を静かに聴くのも、心休まるひと時かと思えます。



樹齢700年の巨木

最後になりましたが、参加者および都留市役所職員をはじめ関係者のご協力、それから、ご寄附およびビールの差し入れをいただいた方、おかげさまで皆楽しく無事に帰ることができました。

(ツアー実行委員 横山 駿)

## 川分科会

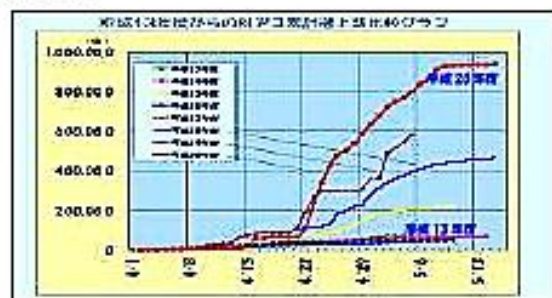
### 秋が瀬管理所訪問記

#### 稚鮎の遡上 93万9千匹突破

荒川の河口から35km地点に、秋が瀬の取水堰がある。この堰は河口から最初の堰で、下流では瀬の干満も見られる。

水棲生物の生態系にとって、このような河口堰が大きな障害となっているのだが、この秋が瀬の堰も例外ではない。これまでは魚道はあっても遡上の見込めない障害物であった。

しかしながら近年、魚道の改良が行われ、その効果が目に見えて現れてきているという。ゴールデンウィークを前に、川分科会有志で管理事務所を訪問し、近年の取り組みの説明を受けた。水中カメラなどの設備を見学し、稚鮎の計量に立ち会うことになった。説明によると、平成10年から徐々に魚道の改良に取り組み、13年頃からは稚鮎の遡上に大きく改善が見られ始めたという。特に昨年の58万匹もさることながら、本年度は93万9千匹と大



きく記録を上回っている。その根拠は、魚道の改良、水質の改善、さらには堰下流部の水際の地形変化等様々な要因があるが、本当のところはまだ研究中という。いずれにせよ、我が入間川のみならず、荒川流域全体にとってまさしく朗報といえる。同席した地元南部漁協の方の話では「鮎のみならず、秋が瀬の堰下にはサクラマスも遡上し始めた」と聞いた。今後のさらなる改善に期待したい。

稚鮎の遡上改善を弾みとして、川分科会としては今夏、入間川で鮎漁を絡めたエコツーリズムに取り組みようと考えている。

(伊藤あきら)

水野実年大学は、水野公民館の高齢者対象事業として、20年ほど継続している事業です。年に20回程度、講座（健康、歴史、環境等）、遠足・旅行、映画・演劇等の充実した活動が、総勢約70名のメンバーで進められています。

5月27日（火）、地球温暖化に関する環境講座が行われました。環境講座開催のきっかけは、昨年公民館として「緑のカーテン」に取り組んだことでした。比較的簡単に取り組めたため、多くのメンバーで実施可能と考え、市の協力の下、4月の入学式でゴーヤの種を配布、苗が育った人にネットを配ることとなりました。「緑のカーテン」を含めて地球温暖化防止について、あらためて勉強したいとの思いで、この環境講座が開催されました。

会場には60名近いメンバーが集まりました。従来、中央公民館で実施してきた環境講座のおよそ倍の参加者です。講座は、第一部「地球温暖化の影響・将来予測」「地球温暖化クイズ」（講師 土淵）、



4月に行なわれた実年大学の様子

第二部「エコライフを实践しよう（緑のカーテン）」（講師 児玉）でした。特に第一部の「地球温暖化クイズ」は日頃、新聞、雑誌、テレビ等に出てこない話題が多く、楽しい雰囲気の中でも温暖化の厳しさを実感した時間でした。質疑応答を含め、実年大学の環境意識の高さと、その熱気に驚かされました。

温暖化防止の普及・啓発活動は従来の活動だけでなく、もっと各公民館、各学校と連携し、地域の特性を生かした活動にしていかなばと、強く感じました。（児玉 靖）

ごみ減量分科会

レジ袋有料化の動き

容器包装リサイクル法の見直しで、消費者団体が主張する事業者責任について討議されたが、お預けになった。その際ただ1つ「レジ袋の有料化を推進する」という項目が入った。ただ、この項目も国が取り決めるのではなくて、各自治体に推進を任せることになった。



レジ袋の有料化により、レジ袋を出さないで済む事は商店として損失は無いが、一部商店が自主的に行なうのは客離れが恐れられて、なかなか推進しにくい面がある。そういう意味で、広域で

一斉に行なう必要がある。そんな中、全国的にレジ袋有料化の動きが始まった。

例えば、富山県、山梨県では全県で有料化の準備を進めており、特に富山県では県、消費者団体、事業者（スーパー25社118店舗）が有料化について協定を結び、平成20年4月1日より開始した。その結果について、平成20年5月22日の朝のラジオで、マイバック持参率が90%を越えたことを報じていた。その他に、三重県伊勢市ではマイバック持参率89.3%を達成。また、新潟県佐渡市、静岡県掛川市、茨城県ひたちなか市などの動きも伝えられていた。埼玉県では、川口市と春日部市が準備を始めたとのことである。

ごみ減量分科会としては、消団連、狭山市、狭山市内のスーパーなどと話し合いを持って、この運動に関わるよう準備を進めたいと思っている。（土淵 昭）

# 「さやま子ども環境カルタ」の発表会 開催結果と今後の計画

本誌前号でご紹介しました「さやま子ども環境カルタ」について、その後の状況をお知らせします。



狭山市役所エントランスホールでの展示の様子

4月1日～11日の間、狭山市役所エントランスホールで「さやま子ども環境カルタ」の発表会を開催しました。期間中ご覧いただいた市民のみなさんの感想やご意見の主なものをご紹介します。

絵札の印象については「大人も子どももわかりやすく、ステキな絵札だと思う。また“オッ”と、勉強になる絵もあり楽しくなりました。子供たちのやさしい気持ちが伝わりました」「子どもにもわかりやすく、環境をテーマにしつつも、絵でやさしく、伝わりやすくして良いと思う」。

英訳の印象については「川柳のような読み札が多いので、英訳には苦労されたと思いますが、短い文でわかりやすくなっていて良かったです」「英訳するとこうなるのかと、感心しました」「世界にも通じるので良いと思う」。

カルタの適当な価格については、回答者の70%が「1000円程度」、15%が「500円程度」、残り15%が「1500円程度」、あるいは「2000円程度」でした。

印象や活用などについては「家庭や地域など、いろいろな場で反復して使って欲しい。全国的に大変立派な出来栄です」「こういう活動を通じ、子どもたちの環境意識が高まっていくと思いました。これを使ってカルタ大会などおもしろそう」。

さて、環境カルタの今後ですが、大きな課題は印刷費の確保です。現在、サイサン環境保全基金から35万円の助成が、狭山市から30万円の補助が確定



していますが、まだ70万円程度が不足しています。この不足額を確保するため、環境カルタを有料で頒布する他、事業所や市民のみなさんに協賛金をお願いしたいと考えています。その際にご協力よろしくお願い申し上げます。

9月21日(日)に「NPOさや環設立1周年記念イベント」の開催を予定していますが、その冒頭において、読み札採用者の表彰式を行なうことにしています。その後、環境カルタ遊びを通して、環境保全への理解を深める「環境カルタ大会」の開催や、遊びの出前などを考えています。

(環境カルタ実行委員会 毛塚 宏)

## 環境保全活動事業を市から受託

さやま環境市民ネットワークは昨年、任意団体からNPO法人として生まれ代わりました。これにより組織の自立性、自律性、主体性、透明性、さらには行政や事業者との協働性をより高めていく事となりました。行政とは、基本的にはパートナーシップの関係に変わろうとしています。

しかし反面、今まで環境政策課内にあった事務局は市から独立させる、および行政から出ている補助金がなくなる等の、運営上の課題がありました。従来は、行政が進める事業をボランティア活動としてサポートしてきましたが、今後は事業として受託し、責任を持って成果を出すことが求められています。

昨年秋に、行政に対しエコライフDAY等の活動を、事業として受託できないかとの働きかけを行い、その企画書を提出しました。その結果、狭山市とNPOさやま環境市民ネットワークの間で「平成20年度環境保全活動事業業務委託」の契約が5月7日に締結されました。受託した業務の内容は右の通りです。



市役所庁舎で発生えはじめた緑のカーテン

- 1) 「エコライフDAYさやま」の展開
  - ・「エコライフDAYさやま」を夏、冬の2回実施
  - ・「エコライフDAYさやま」の企画、配布、集計および報告書の作成
- 2) 「緑のカーテン・すだれの普及」活動
  - ・市役所庁舎の緑のカーテンの設置及び看板の設置
  - ・市民への緑のカーテンの普及、啓発活動及び活動の効果、結果報告書の作成
- 3) 市内小学校における入間川を利用した総合的な学習時間の支援
  - ・野外調査(魚類、植物、野鳥、ごみ、流木、水辺)
- 4) 狭山市の温室効果ガスの推計
  - ・狭山市から排出される温室効果ガスの推計

これらの事業を総額46万2千円で受託しました。

受託した以上、求められる成果を確実に出し、次年度以降の受託事業、受託金額の拡大に繋げていかねばなりません。そのためには、NPOさや環として「ボランティア」から「事業者」への意識改革が必要となります。



適温暖房  
20℃以下



(児玉 靖)

## 声 ★ 米軍よ、辺野古もか!

今年4月、沖縄・辺野古を訪れた。明るく透きとおった青空、彼方まで続く青い海のグラデーション、きらきらまぶしいサンゴ砂の白浜には、人っ子一人いない。静かで、のどかな、南国の小さな集落。砂浜に張りめぐらされた鉄条網と、基地反対の大看板を見るまでは、この海が米軍の海上ヘリポート建設問題で大波にのまれているとは、誰も気づかないであろう。

鉄条網には、「辺野古を守れ」のメッセージの記された、色とりどりのリボンがすき間なく結びつけられている。英語やハングルで書かれたリボンもたくさんあった。辺野古の海は、豊かなサンゴ礁が広がるほか、天然記念物のジュゴンの棲息も確認されている。「人間の暮らしを壊し、生き物たちの棲家を奪い、戦争のための装置が拡大されていく」この地球。人類にとって「歴史」は何のためにあるのだろうか。(鶴の木 山口千尋)



## 環境負荷の少ないガスエネルギー

川越市駅に程近い線路沿いに、時の鐘の絵をあしらったランドマークのガスホルダーが見えてくる。私たちは6月4日、ここ武州ガスの本社を訪問した。

企画グループの大久保忠夫氏と佐藤宏一氏が私たちの質問に、終始、快くお答え下さった。

早速「NPOさや環」に入会した理由をお尋ねすると、話は大正時代に遡り、「2代目社長、原次郎氏が、常襲的水害に苦しむ郷土（現 坂戸市）を救いたい、その原因が薪や炭のための山林伐採にある」と考え、それに代わる熱源を確保しようと、大正15年に武州瓦斯（株）を設立しました」と、会社設立の経緯が、同時に環境保全へのいち早いスタートであった事を、誇りを持って語られた。

長い歴史の中で培われた環境への意識は高く、現在、会社として多方面でさまざまな取り組みが行なわれている。

- ① LPGよりも環境への負荷が少なく、安定供給できる天然ガスの普及
- ② ガスコージェネレーションシステム（都市ガスを燃料にエンジンやタービンを回して発電、このとき生じる廃熱をさまざまな用途に利用



和やかに対応してくれた大久保氏と佐藤氏

るシステム）の導入

- ③ 環境への負荷が少ないガス冷房、天然ガス自動車と省エネ機器の普及
- ④ 森林保護と緑化（飯能に森を購入、本社ビルの屋上緑化）
- ⑤ 廃PE管（ガス管）、その他のリサイクルなど。最後に、屋上緑化を拝見し、社員の皆さんのエコへの熱意を感じ、この活動の炎がいつまでも続くことを願って会社を後にした。

（編集委員 仲村みどり）

## イベント情報



## NPOさやま環境市民ネットワーク 法人化一周年記念行事

- 日時：平成20年9月21日（日）午後1時開場
- 場所：狭山市市民会館 大ホール（入場無料）
- 午後1時20分より「さやま子ども環境カルタ」の作品表彰  
市内の小・中学校の子どもたちが応募した、狭山の環境を詠んだカルタの読み札に英訳をつけ、それぞれに絵札をそろえました。
- 午後2時より 映画「不都合な真実」上映  
前 USA 副大統領アル・ゴア出演 長編ドキュメンタリー映画  
2007年アカデミードキュメンタリー映画賞受賞  
当映画で環境啓発活動が評価され、アル・ゴア氏はノーベル平和賞受賞



平成19年度末の「狭山市みどりの基金」残高は3億8314万円です。平成20年度4月からの寄付・募金の合計は、6月15日現在 ¥39981（内、クローバーマーク付き¥10000）です。  
ご協力、どうもありがとうございました。

市内在住・在学・在勤の個人、市内で活動されている

民間団体や事業者であれば、入会することができます。

問合せ先：NPO法人さやま環境市民ネットワーク事務局

事務局長 伊藤勝彦 Tel/Fax04-2956-6357 携帯090-4535-2394

●Eメール：o\_surd@planner.so-net.ne.jp

●ホームページ：http://sayama-kankyo.org

会員数：平成20年6月20日現在（総数187会員）個人154人/ 団体23団体/ 事業者10事業者



皆様の入会を  
お待ちしております。